

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791400013		
法人名	株式会社 マインド		
事業所名	グループホームまいんど万世		
所在地	本宮市本宮字万世137-5		
自己評価作成日	平成22年11月26日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者個々の生活歴やペースに合わせ、ゆったりした毎日が送れるよう心掛けています。 地域との関わりを持ちながら楽しく過ごせるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 理念に沿った行動計画と事業計画を立て、毎月開催している会議の中で行動を振り返りながら実践している。 2. 町内会に加入し、地域行事に参加すると共に、事業所内で行う行事等に住民の参加を呼びかけている。また、認知症キャラバンメイトの研修を受講し、地域包括支援センターの依頼の下、認知症サポーター養成に協力している。 3. 利用者の要望を聞き、利用者全員に対し、日常的な散歩、外出支援を積極的に行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に地域密着サービスに対する項目も取り入れ、毎月のスタッフ会議などの機会に実践できているかどうかの振り返りを行っている。	理念は事業所内に掲示されており、事業所は理念に沿った行動計画と事業計画を立て、毎月開催している会議の中で行動を振り返りながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、地域の行事やふれあいサロンへ参加し地域の方々と交流している。また、地域の方に事業所の花見会や芋煮会に参加していただいている。	町内会に加入し、地域行事やふれあいサロン等に参加すると共に、事業所内で行う行事等に住民の参加を呼びかけている。さらには、散歩等での挨拶、会話など日常的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年、認知症キャラバンメイトの講習を職員が受講した。市の地域包括支援センターの要請があり、これから地域の方を対象にした認知症サポーター養成講座を開催する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での取り組みに対する様々な感想やご意見を頂いており、地域との関わりについてもアドバイスを頂き、ケアに活かしている。	会議は定期的に行われ、事業所の活動報告や取り組み状況等が報告され、積極的な意見交換が行われている。出された意見要望等を積極的に取り入れ、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方に、運営推進会議に出席していただいております。また何かあれば相談にのっていただいている。	市担当者とは運営推進会議の中での意見交換や、サービス利用に係る諸問題(待機者の状況、介護保険制度の利活用等)等について、日頃から連携を取り協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないケアを継続している。社内に身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な話し合いや勉強会を実施している。	身体拘束廃止委員会を設置し、勉強会や研修会を通して、身体拘束をすることに伴う弊害等を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関は開放されているが、北側の非常口は施錠している。	日中、非常口の施錠しないケアのあり方を検討して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の身体拘束廃止委員会で虐待防止について話し合った事や勉強会の内容を事業所内で報告し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われる利用者については、地域包括や社協の担当の方やご家族と話し合いをし活用できるよう支援している。制度についての勉強会も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書については十分な説明を行っている。不安や疑問点があれば十分にご理解を得られるような説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者については、日常の様子や会話、表情などから要望が読み取れるように心掛けている。ご家族から面会時や運営推進会議等で出た意見や要望については検討し、その都度対応している。	利用者の日常の様子や会話から要望等を把握している。また、家族会との話し合いや面会時等で頂いた意見や要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に代表者と職員との個人面談の時間を設けている。また、職員からその都度出た意見や提案については、代表者と管理者で話し合いをし、反映させている。	管理者は、会議や日頃から職員との関わりの中で意見や思いを聞いている。また、年2回個別面談を実施し、その中で意見、要望を聞く機会を設けている。意見や要望は事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を運用し、職員個々の状況を把握できるようにしている。また、社内研修や社外研修を通して職員が学べる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内全体での研修の他に、委員会主催の研修会などを実施している。また、社外研修も内容と職員の力量を見ながら参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の管理者意見交換会で他事業所の管理者同士で話す機会がある。また、複数事業連携事業で、定期的に他事業との研修会を行い意見交換を通して、他事業所の取り組みを参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望を察知し、少しでも早く安心して慣れた生活が送れるよう、ご家族やそれまで利用されてきたサービスの担当者などから詳しい情報を頂いてから本人への支援を開始している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から入所時まで、ご家族から本人の生活歴や心身の状態などを教えていただき、それに対しての事業所としての支援方法などを説明し、少しでも不安なくサービスが利用できるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にセンター方式のシートをご家族に記入していただいている。その内容を参考にしながらご本人の現状をみて、必要としていることを早めに把握できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者のこれまでの生活歴や習慣を把握し、関わりの中から一緒に楽しめる事や一緒に出来る作業を見つけていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊、受診、行事など様々な面でご家族に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類やご友人の方が気軽に遊びに来れるような環境づくり、また行きつけの病院や美容院、飲食店などを継続して利用できるように支援している。	親類や友人の訪問が多い。生まれ育った地域での、馴染みの関係が途切れないよう、美容室や商店の利用、自宅への帰省等、職員と家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から、それぞれのご利用者の関係性を十分に把握し、上手くコミュニケーションが図れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になったご利用者についても、変化があればご家族から報告をいただいたり相談に応じるなど、関係の継続性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない日常会話を通してご本人の意向や希望の把握ができるよう努めている。意思表示が困難な場合であっても、ご家族に相談したりしながら出来るだけご利用者本位になるようなケアを行っている。	センター方式を活用しながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、思いを弁せない利用者に対しては、家族の思い等を聞き、利用者本位のケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りや、ご家族からご本人の生活歴や心身の状態などを教えていただいたり(センター方式活用)、これまで利用されていたサービスの担当者の方からの情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りを通して、一日の過ごし方や心身の状態、有する力を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、各担当スタッフを中心に話し合いを実施し、出来る限りご本人の意向に添った介護計画を作成している。また、それぞれの期間ごとに見直しも実施し次の計画に活かしている。	利用者、家族、担当職員とが話し合い、意見や思いを把握し毎月カンファレンスを開催し、全職員で意見交換を行って、意向に添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを中心とした個別記録となっているが、ケアプランの内容以外にも新たな気づきがあればその都度記入し、申し送りやスタッフ会議で情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院など必要な支援を、ご本人やご家族のその時の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者それぞれの好みや得意分野を把握しながら、ボランティアの活用や、地域のふれあいサロンへの外出など、それぞれに合った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所しても出来るだけかかりつけ医は変えない支援をしているが、事情によりかかりつけ医を変更することになった場合は、ご本人やご家族に納得し安心して医療を受けられるような説明をしている。	本人や家族の希望する医療機関で受診しており、事業所からかかりつけ医への受診前の情報提供をしたり、受診結果を家族から聞き情報共有されている。また、緊急時にはいつでも受診できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師の定期的な訪問により、ご利用者の健康チェックをしてもらっている。何か不安な事があればすぐに相談し、状況に応じて診てもらおう体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合は、病院の関係スタッフへご利用者の細かい情報を提供し、早期退院にむけてスムーズな治療が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、説明は行っているが、ご利用者の状態に応じてスタッフ間の話し合いやご家族との話し合いの場を設け、主治医とも今後の関わりについて相談をしている。	入居時に重度化や終末期の指針を本人、家族に説明すると共に、状態変化時には主治医、家族と話し合いを行い、方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、全職員が消防署での救命救急の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。また、災害時の対応マニュアルが用意されている。他、災害時に備えた水や食料などの備蓄がある。	年3回、消防署の指導を受けた夜間想定訓練等を行っており、災害備蓄を常備している。非常通報装置がありスプリンクラーも、今年度中の設置計画がある。	非常通報連絡網に地域住民を加えることや、防災訓練回数をより多くするよう検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを確保するため、個々に合わせた対応をするように心掛けている。特に排泄関係の声掛けには気をつけている。また、個人情報の取り扱いにも十分注意している。	プライバシーや個人情報の確保について、マニュアルや研修で職員に徹底しており、利用者への言葉掛けや対応について、一人ひとりを尊重した接し方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がそれぞれの希望を表出しやすい関係作りに努めている。なかなか自分から表出できずにいる利用者には職員側からさりげなく話題を提供したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、外食など、個々の生活のペースや希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の衣類の選択や外出時の化粧など、それぞれの希望に合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事作りやおやつ用の用意、片付けなど個々の持っている力に合わせて一緒に行っている。また、じゃがいもなどの野菜を一緒に育て、成長や収穫を楽しんでいる。	食材配送会社のサービスを受けているが、利用者の希望を受けたメニューを提供する日や、一人ひとりの希望で外食等もできるような支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量のチェックシートを活用しており、それぞれの利用者の摂取量が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを実施している。声掛け、見守り、介助と、個々の力に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。不必要なおムツの着用は出来るだけ避けるようにしている。	排泄チェック表や表情で排泄リズムを把握し、出来るだけ自立できるよう支援している。便秘解消のため歩行や運動を行い、オリゴ糖、乳酸菌飲料摂取等の支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分摂取・排泄チェックシートを活用しながら便秘がちな方への排便コントロールをしている。食事や水分の工夫や運動を日常に取り入れているが、主治医に相談し下剤を処方していただくこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事がある場合等を除き、毎日入浴を実施している。出来るだけご利用者の希望に合わせた入浴の支援に取り組んでいる。	通常毎日の日課に午前、午後の入浴時間があり、一人ひとりの希望で入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、日中の臥床時間や夜間の就寝時間をとっていただいている。夜間安眠できるよう、日中の活動内容にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の個別ファイルに、毎回受診して処方される薬の説明書を綴り、薬の効能や副作用の確認が出来るようにしている。処方された薬に変更があれば、その都度管理日誌や申し送り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望を把握しながらそれぞれに合った役割、楽しみを継続できるように支援している。様々なものを提供し、充実した生活を送って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者個々の希望に合わせ、散歩や買い物、外食の支援をしている。ご家族の協力もあり、色々な外出の支援ができています。	利用者の希望に沿った散歩、買い物、外食等の支援を行なっている。家族の協力を得て牧場や県内の名所地で、温泉入浴を楽しむ等の支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者、自己管理が難しい利用者とまちまちであるため、個々の金銭管理能力に合わせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者からの希望があれば、自由に電話は使えるようにしている。手紙のやりとりも職員が手伝いながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所が分からなくなってしまうご利用者の為にトイレや浴室入り口には場所名を表示している。また季節感が分かるような掲示物や飾り物をおくようにしている。	共有スペースは吹き抜けの構造で明るく、ゆったりした構造で床暖房や空調設備もある。季節の花や植木、利用者の共同作品、行事写真等があり、生活感、季節感が感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にコタツを置いたり、リビング内にソファを置くことで、利用者同士でくつろいだり、コミュニケーションをとったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家具や人形、日用品、写真などをご家族に協力して頂き居室へ持ち込んで頂き、できるだけ、安心した環境で生活できるように支援している。	ダンス、テレビ、アルバム、椅子等馴染みの物を持ち込み、その人らしく落ちついた生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く設置し、ホーム内には段差がないような作りになっている。浴室やトイレの表示はしているが、各居室は、分からなくなってしまう方のみ表示している。		